

豊かな学びと育ちをつなげる

# かつしかっ子スタートカリキュラム

～スタートカリキュラム作成のための手引き～

## スタートカリキュラムとは

幼稚園、保育所、認定子ども園などでの遊びや生活を通じた学びや育ちを基礎として、主体的に自己を発揮できる場を意図的につくり、幼児期の教育と小学校教育を円滑に接続していくためのカリキュラムです。

葛飾区教育委員会



## 目次

I	かつしかっ子スタートカリキュラムとは	1
II	スタートカリキュラムを創ろう！	3
1	幼児の発達や学びを理解する	3
2	期待する児童の姿を共有する	5
(1)	期待する児童の姿の共有する	5
(2)	実施期間の検討	5
3	各学校のスタートカリキュラムを編成する	6
(1)	単元の構成と配列	6
(2)	週計画と時間配分	7
(3)	児童が安心して学べる環境構成について	10
III	スタートカリキュラム充実のためのポイント	12
IV	参考資料	14

# I かつしかっ子スタートカリキュラムとは

「葛飾区教育振興基本計画」では、すべての子どもが等しく質の高い教育環境で学ぶことができるよう、就学前教育や学校間連携、教員研修等の充実を目指してきました。小1問題解消の必要性から、幼稚園、保育所等と小学校の連携教育充実について検討し、「幼児期の学びと小学校教育の連携のための取組表」が作成され、各校園により様々な幼保小連携教育が進められてきました。

また、学習指導要領が新しく改訂され、幼児教育から小学校教育の円滑な接続が求められています。

幼児期の教育は環境を通して行う教育であり、小学校へつながる「知識・技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の育成を目指し、5領域の内容を遊びや生活を通して総合的に学んでいきます。一方、児童期は学習指導要領に基づいて時間割りを設定し、教科書を主たる教材とし各教科等の学習内容を指導していきます。このことが幼児期の教育と児童期の教育の違いとなります。幼稚園や保育所等と小学校とでは子どもの生活や教育方法が異なり、生活の変化に対応できない子どもも見受けられ、学校への適応ができない要因の一つになっていると考えられています。

そこで葛飾区では、小学校入学当初のカリキュラムを工夫して幼児期の教育と小学校教育を円滑に接続し、入学したかつしかっ子が、幼児教育での学びと育ちを基に、主体的に自己を発揮し、いきいきと新しい学校生活を創り出せるよう「かつしかっ子スタートカリキュラム」を作成しました。

## かつしかっ子スタートカリキュラムのねらい

スタートカリキュラムを充実させることで、児童、教員、保護者にとって次の利点があります。

**児童**：「安心」「成長」「自立」

安心して主体的に自己を発揮できるようになり、小学校生活への意欲が高まる。  
自信や学びに向かう力を育み、自分で考え判断し、自立につながる。

**教員**：「発達特性を踏まえた指導」

幼児期の教育と小学校教育の発達の特性を踏まえた指導をきめ細かく行うことができる。

**保護者**：「信頼」「協力」

教育活動の理解と信頼を深め、安心して学校に送り出し、学校に協力的になる。

## かつしかっ子スタートカリキュラムを編成する基本的な考え方

- ◆一人ひとりの児童の成長の姿から編成する。
- ◆児童の発達の特性を踏まえて時間割や学習活動を工夫する。
- ◆生活科を中心に合科的・関連的な指導の充実を図る。
- ◆安心して自ら学びを広げていけるような学習環境を整える。

## 各学校でのスタートカリキュラム編成の手順

### 1 幼児の発達や学びを理解する

- ・ 幼児期の発達や学びの姿を把握する。
- ・ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえる。

### 2 期待する児童の姿を共有する

- ・ スタートカリキュラムで期待する児童の姿を明らかにする。
- ・ 実施期間を確認する。

### 3 各学校のスタートカリキュラムを編成する

#### (1) 単元の構成と配列

期待する児童の姿に適合した単元を構成し配列する。

#### スタートカリキュラムとして大切なこと

幼児期の教育とのつながりや児童の発達の特性を踏まえ、主体的に自己を発揮しながら、より自覚的な学びに向かうことが可能となるよう、生活科を中心とした合科的・関連的な指導の工夫を行う。

全ての単元を配列し、俯瞰することができる単元配列表を作成する。

#### (2) 週の計画と時間配分

単元計画に基づいた学習活動を週の計画として時間配分する。

#### スタートカリキュラムとして大切なこと

児童の発達の特性や学びの特徴を踏まえ、短い時間で時間割を編成したり、ゆったりとした活動時間を位置付けたりするなど、弾力的な時間割の設定の工夫を行う。

実践に向けて具体化するために週案を作成する。

## Ⅱ スタートカリキュラムを創ろう！

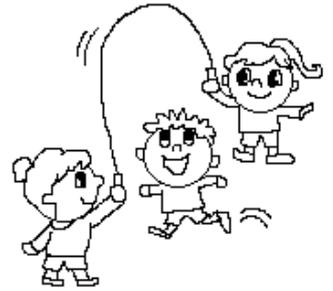
### 1 幼児の発達や学びを理解する

幼稚園教育要領や保育所保育指針等では、幼児教育において育みたい資質・能力が育まれている具体的な姿を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として10項目で記されています。これを手掛かりとして、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力について理解し、児童の成長を把握しながらカリキュラム編成を行うことが重要です。

#### 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

##### ①健康な心と体

幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。



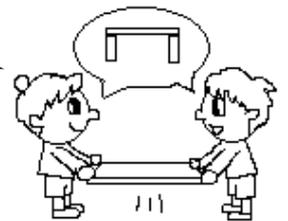
##### ②自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。



##### ③協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。



##### ④道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。



##### ⑤社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりを意識するようになる。



⑥思考力の芽生え



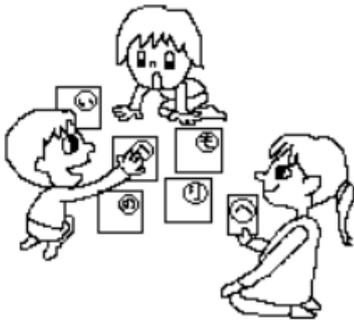
身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

⑦自然との関わり・生命尊重



自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。

⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚



遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

⑨言葉による伝え合い



先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

⑩豊かな感性と表現



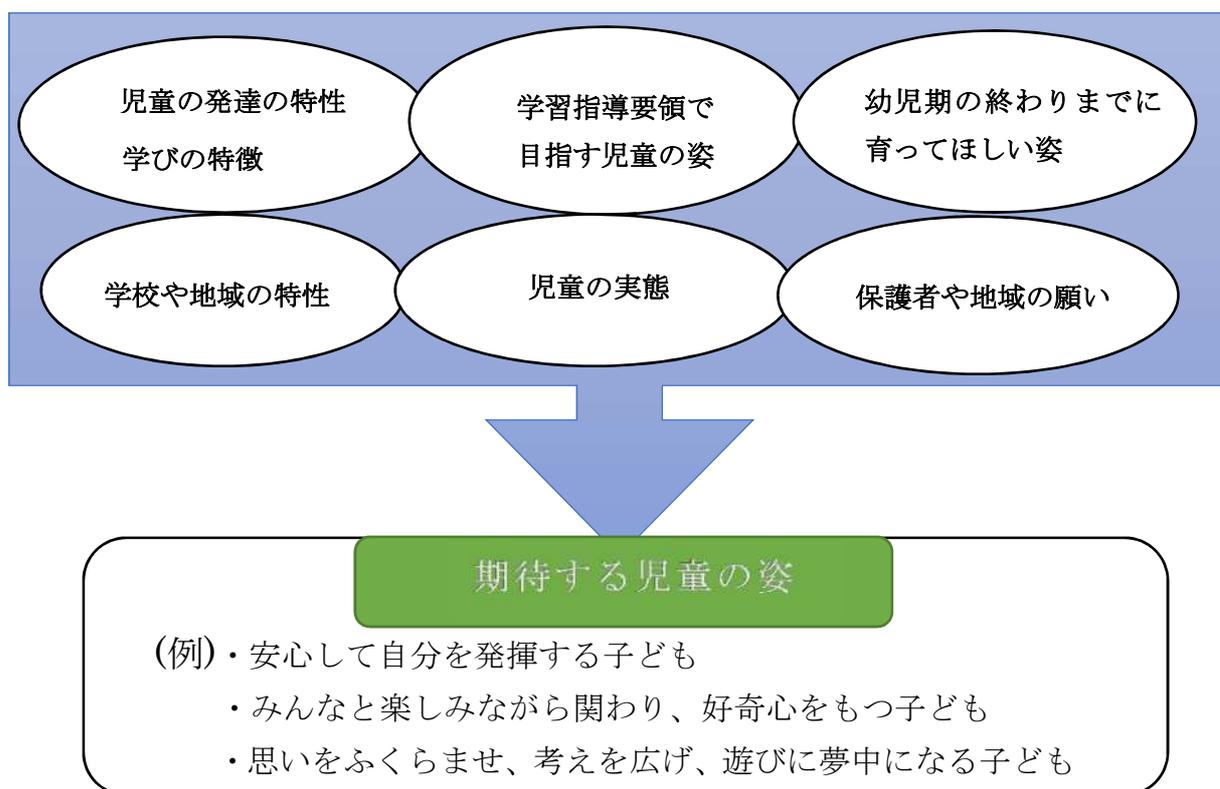
心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

## 2 期待する児童の姿を共有する

### (1) 期待する児童の姿の共有

スタートカリキュラムは、児童の発達の特性や幼児期の発達を踏まえて編成することが重要だと考えます。スタートカリキュラムを通して一人ひとりが確かに成長することを目指し、期待する児童の姿を明らかにすることが欠かせません。

期待する児童の姿については、小学校入学当初の教育課程全体を通して学校全体で育んでいくための目標として、第1学年担任だけでなく、全教職員で検討するとともに共通理解を図ることが大切です。その際、保護者にもスタートカリキュラムの意義や期待する児童の姿などを伝え、安心感や信頼感を生み出すようにしていくことが大切です。



### (2) 実施期間の検討

スタートカリキュラムは、入学当初（1学期～2学期始め）のカリキュラムなので、長期的な長いスパンでの計画と週ごとの短期的な計画を考えていきます。

- ・長期的な計画（4月～9月第1週程度、ねらいと学習内容の配分）
- ・短期的な計画（週ごと、ねらいと活動計画）

#### 【入学から夏休み明けまでのカリキュラムの例】

時期	4月第1週～ 第2週	4月第3週～ 4月末日まで	5月頃	6月頃	7月頃 ～9月
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心をほぐす。</li> <li>・学校に対する安心感をもつ。</li> <li>・先生や友達と仲良くする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分にできることは自分で考える。</li> <li>・新しい集団のルールを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関わりを広げる。</li> <li>・自己発揮・主体性を発揮する。</li> </ul>		

### 3 各学校のスタートカリキュラムを編成する

#### (1) 単元の構成と配列

##### 【合科的・関連的な指導の工夫】

スタートカリキュラムにおいて、合科的・関連的な指導の具体例としては、次の3つのタイプに分けられます。

- ・合科的な指導…生活科を中心とした単元の学習において、複数の教科の目標や内容を組み合わせることで、学習活動を展開することで、指導の効果を高めます。(———)
- ・関連的な指導①…生活科の学習成果を他教科などの学習に生かします。(——→)
- ・関連的な指導②…他教科などの学習成果を生活科の学習に生かします。(-----→)

ここで大切なことは、単に学習材や活動を関連付けるだけでなく、各教科などでどのような資質・能力を育成したいのかを意識し、児童の意識の流れを想定した上で、相互の関連について検討し位置付けていくことです。また、合科的な指導においては、関連した教科の目標が生活科の目標とともに実現されていくように意識する必要があります。

##### 【単元配列表の作成】(図)

各教科等	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	
国語	さあ はじめよう					
	あさ	なんて いおうかな	どんな おはしかな	どうぞ よろしく	こえの おおきさ	うたに あわせて ことばを つくろう
算数	なかまづくりとかず			こえにだして いおう	なんばんめ	
生活	すたあと ぶつく				たねをまこう	
	がっこうたんけん1			がっこうたんけん2		
音楽	みんなで うたおう	おんがくにあわせて からだをうごかそう		わらべうたで あそぼう		
図画 工作	オリエンテーション ずこうしつってどんなところ?		すきなもののいっぱい		まるめて つんで それから	
体育	ゆうぐあそび	からだほぐし	おにごっこ		かけっこ	
道徳	ようこそ 1ねんせい	べんきょうが はじまりますよ		あいさつ	がっこうにはね	
特別 活動	がっこうの きまり	おいしい きゅうしょく	1ねんせいを むかえるかい	たてわり はん	たのしい えんそく	

## (2) 週計画と時間配分

週案を作成する際には、次のような学習の類型が考えられます。

スタートカリキュラムを構成する活動の類型	
♡	一人ひとりが安心感をもち、新しい人間関係を築いていくことをねらいとした学習活動（安心をつくる時間）
😊	合科的・関連的な指導による生活科を中心とした学習活動
✍	教科などを中心とした学習活動

次に示したのは、「週案」を作成する際に意識したポイントです。各学校においては、このようなポイントを確認し、期待する児童の姿に向けて週案を作成することが求められます。

### 「週案(例)」を作成する際に意識するポイント

	スタートカリキュラムとして大切にすること
<b>ポイント1</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝の会から、1時間目を連続した時間とし、幼児期に楽しんできた遊びや活動、交流する活動などを位置付け、楽しい気持ちで1日がスタートするように1週間の時間割を計画する。</li> <li>○児童が安心して学校生活を楽しむことができるように、一定の期間は同じ学習内容を繰り返す連続性と、少しずつ内容が高まっていく発展性を意識する。</li> </ul>
<b>ポイント2</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童の思いや願いの実現に向けた主体的な学習がつながっていくように、1週間の時間割を計画する。</li> <li>○生活科を中心に、つながりのある他教科などのねらいを考えながら合科的・関連的な指導を行う。</li> <li>○思いや願いの実現に向けた主体的な学習活動をゆったりとした時間の中で進めていけるように、2時間続きなどの学習活動を位置付ける。</li> </ul>
<b>ポイント3</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○入学当初の児童の学習に対する期待感を生かし自覚的な学びにつなぐために、教科などの学びの時間を1週間の時間割に位置付ける。</li> <li>○児童の学習意欲が続いていくように、他教科などの指導の際に生活科との関連を意識する。</li> <li>○入学当初の児童の発達の特性に配慮し、10分から15分程度の短い時間を活用して時間割を構成したり、具体的な活動の伴う学習活動を位置付けたりする。</li> </ul>
<b>ポイント4</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○入学当初の児童の発達の特性に配慮し、午後の時間は具体的な活動の伴う学習活動を位置付ける。</li> <li>○1日の終わりには、明日への期待感を高める活動を設定する。</li> </ul>

**【週案の作成例】**

今週の目標：少しづつ友達との関わりを増やし、新しい集団に慣れる。

	第6日目	第7日目	第8日目	第9日目	第10日目
	4/〇(月)	4/〇(火)	4/〇(水)	4/〇(木)	4/〇(金)
朝	なかよくなろう	なかよくなろう	なかよくなろう	なかよくなろう	なかよくなろう
1	 ・手遊び ・お話読んで ・歌って踊ろう	 ・手遊び ・お話読んで ・お話聞いて ・歌って踊ろう	 ・手遊び ・お話読んで ・お話聞いて ・歌って踊ろう	 ・手遊び ・お話読んで ・お話聞いて ・歌って踊ろう	 ・手遊び ・お話聞いて ・歌って踊ろう ・みんなで歌おう  音 1/3
2	がっこうだいす きみんななかよ し  ・自己紹介をしよ う  国 2/3 ・学校のはてなや びっくりを見 付けよう  生 1 と 1/3	あいうえおで遊ぼ う  ・ひらがな くらべよう ・数を比べよう  国 2/3  算 1/3	あいうえおで遊ぼ う  ・ひらがな はるのあさ ・リズムに合わせ て読もう  国 1	がっこうだいすき なかよしいっぱい ・遊具で遊ぼう   体 1	あいうえおで遊ぼ う  ・ひらがな はるのあさ ・聞き合おう  国 1
3	・学校のはてなや びっくりを見 付けよう  生 1 と 1/3	はるのがっこう こんにちは  ・春と遊ぼう  生 2	10までのかず  ・数えてみよう  算 1	10までのかず  ・見付けたものを 数えてみよう  算 1	10までのかず  ・絵を見て数えよう ・数字を書こう  算 1
4	あいうえおで遊 ぼう  ・ひらがな なかよしだいさ くせん  国 2/3  生 1/3	・春と遊ぼう  生 2	はるですよ  ・みんな生きてい る  道 1	はるのあさ  ・工夫して読もう あいうえおで遊ぼ う ・ひらがな  国 1	からだほぐし  ・二人、三人、みん なで遊ぼう  体 1
昼					
5	くらべよう  ・数を比べよう 「みんなで歌お う」  算 2/3  音 1/3	はるのがっこう  こんにちは ・春のTシャツを 作ろう  図 1	はるのがっこう  こんにちは ・春と遊ぼう  図 1	みんなでわらおう ・わらべうたで 遊ぼう  音 1	

※♡を余剰時間として活用した例

【1日の学校生活の実際】

第6日 4月〇日(月)		幼児期の終わりまでに育ってほしい 10の姿の例	
時刻	類型	学習内容	○予想される児童の姿 ★環境の構成 ●教員の働きかけ
8:10 8:30 1時間目		<ul style="list-style-type: none"> <li>○登校する</li> <li>○ランドセルの片付け</li> <li>○宿題や連絡帳を出す</li> <li>○自由遊びをする</li> </ul>	<p>○登校してからの手順が分かり、自分で朝の支度ができる。</p> <p>○新しい友達と歌を歌ったり、体を動かして一緒に遊んだりすることを通して、新しい出会いを楽しむ。</p> <p>●笑顔で迎え、登校したうれしさが感じられるようにする。まだ不安な心もちで登校している児童がいることに配慮し、先週までの活動を繰り返すことで安心感を高める。</p> <p>★朝の支度などが自分でできるように、目で見えてわかる表示をする。</p> <p>★園で読んでいた絵本やみんなで遊べる積み木、ブロック、粘土などを準備しておく。</p> <p>●「先生や友達と過ごすのは楽しい」と感じられるように、教員も一緒に歌ったり、笑顔を交わしたりして楽しい雰囲気をつくる。</p> <p style="text-align: center;">健康な心と体      協同性</p>
2時間目		<ul style="list-style-type: none"> <li>○「がっこうだいすき みんななかよし」</li> <li>・友達同士で自己紹介をする</li> </ul>	
3時間目		<ul style="list-style-type: none"> <li>・先週出会った先生たちを探し出して自己紹介をし、質問をする</li> <li>・自己紹介の時の様子や見付けた「はてな」や「びっくり」を交流し合う</li> </ul>	
4時間目		<ul style="list-style-type: none"> <li>○「あいうえおであそぼう」</li> <li>・学校探検でお話しした校長先生の名前の頭文字をきっかけにして言葉を見付ける</li> <li>・見付けた言葉を紹介し合う</li> <li>・「い」を丁寧に書く</li> </ul>	

○先生たちに名前カードを渡して自己紹介をし、聞きたいことを訪ねたり話をしたりする。

●担任以外にもたくさんの先生方が見守ってくれていることが実感できるように、校長先生・副校長先生・保健室の先生・用務員さん等との関わりの場面をつくる。

★児童が校内外を自由に探検できるように全職員に協力を依頼するとともに、児童と学校探検のルールなどについて事前に確認をしておく。

社会生活との  
関わり

○「い」のつく言葉見付けをし、それを交流したり丁寧に書いたり、これからの学習で使ってみることを考えたりする

●児童の「書いてみたい」「伝えたい」という思いがつながっていくように、ひらがなの学習も学校探検などと関連付けるようにする。

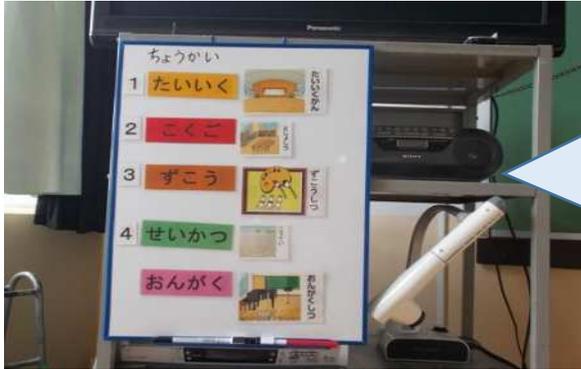
★ひらがな学習を楽しく、そして見通しをもって学べるように、言葉見付けや見付けた言葉の紹介、リズム遊びなど、発達特性を踏まえて一連の学習活動を設定する。

数量や図形、標識や  
文字などへ関心・感覚      言葉による  
伝え合い

### (3) 児童が安心して学べる環境構成について

スタートカリキュラムの実施に当たっては、環境構成においても児童が安心して学べる環境を整える工夫が必要です。児童が安心感をもち、自分の力で学校生活を送ることができるように、児童の実態を踏まえること、人間関係が豊かに広がること、学習のきっかけが生まれることなどの視点で学習環境を見直すことが大切です。

#### ○見通しをもって生活できるようにする **視覚化**



「一人でできるよ！」

時間割や持ち物をイラストや写真で分かりやすく掲示し、一人で支度ができるようにします。



図工や音楽など、いつもと違う持ち物のときでも、バッグのイラストを見れば一人で支度ができるように掲示します。

#### ○幼児期の経験を発揮できる活動や学習形態を工夫する

園で読んでいた本やダンス、遊び等を紹介することで、安心感をもち活動に参加できるだけでなく、園での経験やその違いを多くの友達と共有し、一体感も高まります。

また、園と似た空間づくりや、床を使って興味・関心が同じ友達と相談するなど、学習形態を工夫し協働的に学べるようにすることで、園での学びや育ちを活かし主体的に学習に関わることができるようにします。



## ※園で親しんできた遊びや活動の例

園で読んでいた本やダンスを紹介することで、安心感をもって活動に参加できます。お友達に本の紹介をしたり、共通のダンスをしたりして、学校は楽しい場所だと実感します。

### 《手遊び》

- 1丁目のウルトラマン
- ぶたがみちをいくよ
- いわしのひらき
- やきいもグーチャーパー
- 大きくなったら何になろう
- パン屋に5つのメロンパン
- 山小屋一軒
- あんパン食パンカレーパン

### 《歌遊び》

- 大工のキツツキさん
- ララちゃんとルルちゃん
- なべなべそこぬけ
- もうじゅうがり
- じゃんけん列車
- 二人組でいす取り、フルーツバスケット



### 《ダンス・体操》

- ラウンドチェーン
- エピカニクス
- ラーメン体操
- おでんぐつつ体操
- アブラハムの子
- ぼくらのロコモーション
- 夢を叶えてドラえもん

○園で習った手遊び歌を児童に紹介してもらい、みんなで一緒に遊びます。知っている手遊びを取り入れることで、児童の「わかる」「できる」から安心感を引き出したり、色々な園から集まった児童の共通の話題となったりします。

○児童に先生役になってもらうのもおすすめです。

### Ⅲ スタートカリキュラム充実のためのポイント

小学校教育への適応指導ではなく学びの芽生えとしての幼児期の実態を把握することが大切です。自覚的な学びとして期待する児童の姿を描いて指導します。

#### 低学年における教育の核としての「生活科」



- ・生活科の学習の充実
- ・生活科と各教科の関わり
- ・学習活動充実のための環境整備

学習指導要領の改訂→カリキュラムマネジメントの充実

○教科横断的な視点での教育内容配列の側面

○P D C Aサイクルの側面

○学校内外の資源・人材等活用の側面

◎「どんなねらいで行われるのか」「児童の実態はどうか」ということが優先

◎「この学習が児童の生活にどう位置付くのか」「その後の生活がどう変わっていくことを願っているのか」

## 1 職員・保護者・地域の理解・協力体制で取り組む

### (1) 全教職員で協力・見守り・育てる

学校内では人を含め校内環境のすべてが具体的な活動の対象であるため、指導の効果が上がる協力体制づくりが必要です。まずは、スタートカリキュラムの意義・考え方・ねらいとその必要性を全教職員で理解します。そして、児童の活動内容・活動の場の多様性に応じて、教職員間の綿密な連携が必要です。複数の教職員がその役割を明確にして指導をすることや、活動の意図を伝え、全校的な支援の中で活動が展開できるような体制づくりを進めます。

### (2) 保護者に伝える

入学説明会等で保護者にスタートカリキュラムの意義やねらいを丁寧に伝えることで、安心して入学を迎えられるようにします。また、学級だよりや懇談会などで児童たちの様子を伝え、分かったり成長していく過程を大切にすることに気付いてもらうようにします。

### (3) 連携園との情報交換

近隣の幼稚園や保育所など、幼児教育に携わる人々と交流し、協力体制づくりに努めるようにします。また、幼児と児童の交流が継続的・計画的に行われるよう、相互に年間計画に位置付けたり、事前や事後の打ち合わせをしたりします。

<知る>

連携園と小学校全教職員が年間を通じて研究授業・研究協議に参加し、幼児・児童の発達の流れを学びます。

<交流>

交流を深めるために、担任相互による交流授業の検討を行います。

<実践>

学習内容に応じて、適切な場所で授業を行います。クラス単位・グループ単位以外に全体での顔合わせの場をつくり、担任も相互の授業内での役割を担当するようにします。

<深める>

管理職も参加し、幼・保・小全教職員でお互いの違いや交流活動の様子を話し合い、相互理解を深めカリキュラムの作成につなげます。

<広げる>

日常的に交流をもち、自然な関わりを積み重ね交流を広げていきます。

#### **(4)生活に即した学び**

保護者や地域の人々、公共施設や関係機関の人々の協力が得られる体制づくりをするようにします。

(例) 動物の飼育や植物の栽培への助言

- ・町内会や商店街や公共施設などへの連絡や調整などがスムーズに行えるようなシステムの整備・構築。
- ・人材マップや人材一覧などの作成（安全面の配慮から児童と一緒に活動できる人、町内会・商店街や公共施設などの見学や利用の連絡や調整ができる人、動物の飼育や植物の栽培に助言できる人等を、分野別にまとめておくなど活用しやすい。）
- ・担当者の異動や交代に備え、年度当初に確認を含め挨拶をしておくなど外部連携を継続的に行う配慮

(葛飾区の場合、学校地域応援団等が考えられます。)

## **2 次年度に向けた改善点の反映**

カリキュラムをつくって終わりではなく、児童の意識の流れで変わっていくものであるという意識をもつことが必要です。学期末や研究授業の際に、教育課程全体を考慮し教科等の配列や合科的・関連的な指導がどうであったかの見直しを図り、その都度計画の検討・変更を行い年度末に完成させていきます。

昨年度までのものはデータとして自由に活用できるようにしておき、新年度に昨年度のものを参考にして計画を立てます。学年で相談しながら、目の前の児童の実態に合わせて、合科的・関連的に指導できる教科の単元の配列などを変えていく必要があります。

# IV 参考資料

## 【入学から夏休み明けまでのカリキュラムの例】

時期	◆…ねらい (例)…児童の実態例
心を解放する期間 4月第1週	《学校に対して安心感をもつ》
	◆学校は安心できる所だという気持ちをもつ。 ◆幼稚園や保育所での体験を生かし、「分かる」「できる」という気持ちを支えにして、安心感をもって活動や学習をする。 (例)知っている歌や手遊び歌などを友達と紹介し合って、仲を深める。
	《先生や友達と仲良くなる》
	◆教員との関係を大切にし、信頼関係を築きながら安心感をもつ。 《学校の環境に慣れる》 ◆学校の環境に慣れ、先生や友達との遊びや生活を楽しむ。
心と心を結びつける期間 4月第2週～4月末	《新しい集団のルールを考える》
	◆新しいクラスでの必要なルールに気付いたり、考えたりしながら、その中で徐々に自分らしく行動できるようにする。 (例)よりよい学校生活を送ったり、クラスみんなが楽しく過ごしたりすることができるために、必要なことを発表し合う。 楽しい学校にするためにはルールが必要であることに気づき、きまりを考えたり工夫したりしながら生活する。
	《先生や友達と仲良くなる》
	◆少しずつ友達との関わりを増やし、新しい集団に慣れる。 《自分のことは自分でできる》 ◆生活のリズムをつかみ、自分のことは自分でできるようにする。 (例)学校生活の簡単なきまりを知り、自分たちの生活を工夫して、楽しんで生活しようとする。
心を深める期間 5月頃～7月	《関わりを広げる》
	◆小グループからクラスでの活動へと人間関係を広げていけるようにする。 ◆友達との関わりを広めたり深めたりし、その中で自分らしさを発揮しながら意欲的に生活できるようにする。
	《新しい集団でのルールを守る》
心を充実させる期間 9月第1週	◆集団でのルールを守り、規律ある生活を送る心地よさが感じられるようにする。
	《知的興味》
	◆知的興味を生かしながら、主体的に学習に取り組んでいけるようにする。 (例)これからしたいこと・知りたいことの中から、校舎内探検をする計画を立て、探検中のきまりを考え発表する。プールへの探検から、自分たちも学校のプールで泳いでみたいという意欲をもつ。

今週の目標 : 学校に安心感をもち、教室や学校の環境に慣れる。

日	4月〇日(月)	4月〇日(火)	4月〇日(水)	4月〇日(木)	4月〇日(金)	4月〇日(土)
行事	入学式			保護者会	1年給食開始	
朝	朝の支度 → トイレ → 自由室内遊び♡					
1		<b>なかよくなるう</b> ・あいさつ ♡ ・読み聞かせ ・歌 ・手遊び ・ダンス 国語 1 / 3 音楽 1 / 3 生活 1 / 3	<b>なかよくなるう</b> ・あいさつ ♡ ・読み聞かせ ・歌 ・手遊び ・ダンス 国語 1 / 3 音楽 1 / 3 生活 1 / 3	<b>なかよくなるう</b> ・あいさつ ♡ ・読み聞かせ ・歌 ・手遊び ・ダンス 国語 1 / 3 音楽 1 / 3 生活 1 / 3	<b>なかよくなるう</b> ・あいさつ ♡ ・読み聞かせ ・歌 ・手遊び ・ダンス 国語 1 / 3 音楽 1 / 3 生活 1 / 3	
2		<b>学校たんけん1</b> 😊 ・並び方 ・水飲み場 ・トイレ ・玄関、靴箱 傘立て ・保健室 生活 1	<b>学校たんけん1</b> 😊 ・体育の着替え、 たたみ方 ・校庭で遊ぶ ・遊具で遊ぶ 体育 1 / 3 生活 2 / 3	<b>なまえをかこう</b> ✍️😊 ・鉛筆の持ち方と 姿勢 ・名前交換 <b>あすから</b> <b>きゅうしょく</b> ・準備の仕方 ・手洗い、消毒 ・ランチマット 国語 1 / 3 生活 2 / 3	<b>なかまづくりと                      かす</b> ✍️😊 ・仲間づくり、数え 方、数の読み方 <b>学校たんけん1</b> ・生活科室 ・対面式のあいさつ 練習 算数 2 / 3 生活 1 / 3	
3	<b>入学式</b>  写真撮影  行事 1	<b>じぶんでできるよ                      かえりのしたく</b> 😊 ・配布物のしまい方 ・帰りの用意 <b>あんぜんに きを                      つけて あるこう</b> ・下校コース別に並 ぶ ・安全な道路の歩 行 生活 1	<b>なまえをかこう</b> ✍️😊 ・鉛筆の持ち方 ・初めて書く名前 (鉛筆・クレヨン) <b>いっしょに                      かえろう</b> ・帰りの用意 ・コース別下校 国語 2 / 3 生活 1 / 3	<b>いっしょに                      かえろう</b> ♡😊 ・かもつれっしや ・校歌 ・帰りの用意 ・コース別下校 音楽 2 / 3 生活 1 / 3	<b>おいしい                      きゅうしょく</b> 😊 ・給食ワゴン、配膳 台、水バケツ ・給食当番の仕事と 身支度、ランチマ ット ・手洗い、消毒 生活 1 / 3 学活 2 / 3	
4	<b>はじめまして</b> ♡ ・組や担任名、友達 を知る。 ・返事をする。 ・机、靴箱の場所を 知る。 ・隣の席の友達と握 手する。 行事 2 / 3 学活 1 / 3				<b>おいしい                      きゅうしょく</b> ✍️ ・食事のマナー ・片付け方 ・牛乳パックの始 末 ・給食ワゴンの運び 方 学活 1	

今週の目標 : 友達との関わりを増やし、クラスや学校のルールの中で行動できるようになる。

日	4月〇日(月)	4月〇日(火)	4月〇日(水)	4月〇日(木)	4月〇日(金)	4月〇日(土)
行事	対面式、朝会、 発育測定		聴力検査	視力検査 体育朝会	安全指導 内科健診	葛飾教育の日 1年生を迎える会
朝	対面式、朝会	朝の会	朝の会	体育朝会	安全指導	
1	<b>発育測定をうけよう</b> ・着替え ☺ ・ならびっこ名前順 ・ろうかの歩行 ・発育測定 学活 1 / 3 生活 1 / 3 行事 1 / 3	<b>学校のきまり</b> ☺ ・安全な生活 ☺ ・休み時間の遊びの約束 <b>学校たんけん1</b> ・職員室 ・校長室 生活 2 / 3 学活 1 / 3	<b>ようこそ1ねんせい</b> ・言葉づかい ✎ ・動作 ・保健室を訪ねるとき ・聴力検査 道徳 2 / 3 行事 1 / 3	<b>学校たんけん1</b> ☺ ・図工室 ☺ ・図工の先生のお話 ・図工の持ち物、図工バッグ 生活 1 / 3 図工 2 / 3	<b>学校たんけん1</b> ☺ ・図書室 ☺ ・図書の先生のお話 ・持ち物、図書バッグ ・読書カード ・読み聞かせ ・本の借り方 生活 1 / 3 生活 2 / 3 国語 2 / 3	<b>1ねんせいをむかえるかい</b> ♥ ・体育館で全校集会 生活 1 / 3 行事 2 / 3
2	<b>学校たんけん1</b> ♥ ☺ ・体育館で遊ぶ ・ならびっこ ・肋木 ・動物園へ行こうよ 生活 1 / 3 体育 1 / 3 学活 1 / 3	<b>学校たんけん1</b> ☺ ・図工室、音楽室 図書室、主事室 放送室 ・見付けたことを伝えあう 生活 1	<b>学校たんけん1</b> ☺ ・音楽室ってどんなところ ・音楽の先生のお話 ・音楽の持ち物、音楽バッグ ・みんなで歌う 生活 1 / 3 音楽 2 / 3	<b>すぎなものいっぱい</b> ✎ ♥ ・自分の好きなものの絵を描く ・伝え合う 図工 1	<b>たいいくかんであそぼう</b> ♥ ☺ ・学年全員で遊ぶ ・肋木おにごっこ ・1年生を迎える会練習(あいさつ・歌) <b>内科健診をうけよう</b> ・内科健診 生活 2 / 3 行事 1 / 3	<b>なかまづくりとかず</b> ✎ ・6~10 算数 1
3	<b>そうそうしてよもう</b> ・あさ ✎ <b>おいしいきゅうしょく</b> ・給食当番の身支度 ・手洗い、消毒 ・ランチマット 国語 1 / 3 学活 2 / 3	<b>なかまづくりとかず</b> ✎ ・どちらが多い <b>なんていおうかな</b> ・場面に合わせた言い方 算数 2 / 3 国語 1 / 3	<b>ともだちいっぱい</b> ☺ ♥ ・同じ誕生月の友達と、誕生日列車を作る ・列車に乗る自分の顔を描く 生活 2 / 3 図工 1 / 3	<b>視力検査をうけよう</b> ♥ ・あいさつ ♥ ・受け方の注意を聞く ・視力検査 行事 1	<b>こえのおおきさどうするの</b> ✎ ・場に合う声の大きさ ・今日のひらがな 国語 1	<b>どんなおはなしかな</b> ✎ ・図書室で読み聞かせ ・本の貸し出し ・読書 国語 1
4	<b>おいしいきゅうしょく</b> ✎ ・食事のマナー ・片付け方 ・白衣ロッカー 学活 1	<b>ひらがなをかこう</b> ✎ ・今日のひらがな <b>おいしいきゅうしょく</b> ・給食準備、片付け 国語 1 / 3 学活 2 / 3	<b>なんていおうかな</b> ✎ ・場面に合わせた言い方 ・今日のひらがな <b>おいしいきゅうしょく</b> ・給食準備、片付け 国語 2 / 3 学活 1 / 3	<b>なかまづくりとかず</b> ✎ ・1~5 <b>おいしいきゅうしょく</b> ・給食準備、片付け 算数 2 / 3 学活 1 / 3	<b>べんきょうがはじまりますよ</b> ✎ ・物や心の準備 <b>おいしいきゅうしょく</b> ・給食準備、片付け 道徳 2 / 3 学活 1 / 3	<b>うたにあわせてあいうえお</b> ✎ ・音読 ・今日のひらがな 国語 1



# 幼児期の学びと小学校教育の連携のための取組表（幼保小連携教育版）

背景	現状からの課題
家庭や地域の子育て力の低下や多様な生活経験の不足	生活習慣・運動〔健康な心と体〕
	豊かな人間性〔人とのかかわり〕
	学びの芽生え〔諸感覚を播さぶる〕

小学校就学までに経験してほしい内容
基本的な生活習慣
身体・運動機能
協同
信頼
規範
思考
言葉
創造

「かつしか教育プラン2014」につながる5歳児への援助	
基礎的な体力の向上 1(1)②	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活習慣の自立に向けて、家庭との連携・協力を図りながら、集団生活の中で一人一人が困らないように身の回りのことができるようにする。</li> <li>当番活動などを工夫して生活習慣の幅を広げていくとともに、様々な活動の手順などを丁寧に知らせ、自分たちでできることを増やすようにする。</li> <li>遊びの中で、全身をバランスよく動かして遊ぶ楽しさを味わったり、基本的な道具の使い方などを経験したりできるようにする。</li> <li>生活環境を工夫し、運動遊びに自ら進んで取り組む意欲を高めるとともに、友達とのよりよいかかわり方、集団行動のまきり、健康な生活習慣などを身に付けられるようにする。</li> <li>遊びを通して、ルールの意義や、それを守って遊ぶ楽しさ・大切さに気付くとともに、自分の体をコントロールする力を高めるようにする。</li> <li>収穫体験や調理して味わう体験を楽しむ中で、身体の仕組みにも興味・関心がもてるよう働きかけ、健康な食生活に必要な習慣や態度が身に付くようにする。</li> </ul>
人権感覚・社会性や道徳性の育成 1(2)①	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の頑張りがりや取り組みを伝え合う機会を通して、互いに認め合う雰囲気をつくることができるようにする。</li> <li>友達との関わりの中で、言動や表情などに着目して、友達の思いやりながら、関わるができるようにする。</li> <li>集団の中で、互いの意志や感情を表出し合うことにより、多様な感情を体験し、信頼感で結ばれた温かい集団をつくることができるようにする。</li> <li>集団の中で、一人一人が十分に自己を発揮し、互いのよさを生かしながら遊ぶことができるように工夫することにより、やり遂げた満足感や充実感を味わえるようにする。</li> <li>地域の人から感謝される場面を設定したり、年下の幼児が自分たちに憧れていることなどを伝えることにより、人の役に立つ喜びや満足感、自信につなげられるようにする。</li> </ul>
自尊感情と自己肯定感の育成 1(2)③	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者や教員・保育士等の豊かな愛情と信頼感のもとに、友達とのつながりや関わりをを広げ、集団生活の中で安定して過ごせるようにする。</li> <li>一人一人の発達に合わせた目標を設定し、環境や援助を工夫することにより、幼児が成功体験を味わい、自信や自己肯定感を高めることができるようにする。</li> <li>友達と協同して取り組む活動や年齢の交流などの様々な活動を通して、一人一人のよさや持ち味を互いに見いだすことができるようにする。</li> <li>教員・保育士等と保護者が、幼児のよさ・持ち味・成長などを共有することにより、家庭と共に、幼児を認め、励ますことができるようにする。</li> <li>季節の行事や日本の伝統文化、地域の行事などに親しむ機会をもつことにより、郷土や身近な人・物を大切に思う気持ちを育むことができるようにする。</li> </ul>
豊かな感性と創造性の育成 1(2)②	<ul style="list-style-type: none"> <li>季節ごとの生き物や草花など、様々な自然に日常的に触れられるような環境を構成し、それらの性質や仕組みに興味や関心をもつことができるようにする。</li> <li>地域の自然環境を活用するとともに、様々な自然現象について話題にしたり、表現活動の題材にしたりすることにより、自然の大きさ、美しさ、不思議さに気付くことができるようにする。</li> <li>美しいものや心を動かす出来事に触れ、それを様々な表現方法で表す機会を設定することにより、幼児の心の中に豊かなイメージを蓄えることができるようにする。</li> <li>教員・保育士等が一人一人の幼児の内面や表現の豊かさに共感し認めていくことにより、幼児同士が互いに共感し合い、認め合い、刺激し合える関係を築いていくことができるようにする。</li> <li>様々な素材・道具・用具の使い方や表現方法などを工夫できる環境を構成することにより、幼児が、感動体験などを通して表現し、伝えようとする意欲を高めることができるようにする。</li> </ul>
基礎学力の確実な定着 1(1)①	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手が伝えようとしている内容に注意を向けて聞くことの大切さに気付くことができるようにするとともに、話を聞いてもらう喜びを味わうことができるようにする。</li> <li>一日の予定を理解したり、活動時間を意識したりすることができる環境を構成することにより、見通しをもって生活することができるようにする。</li> <li>遊びについて、さらに興味や願いをもてるような環境を構成することにより、じっくり考えたり試したりすることを経験し、物事に集中して取り組む力を高めることができるようにする。</li> <li>やり遂げた満足感を味わう経験を積み重ねることにより、新たな興味や課題に取り組む意欲を高めることができるようにする。</li> <li>四季の変化に気付く、疑問を抱いたり、それを調べたりすることができる環境を構成することにより、幼児が自然現象などへの知的好奇心を育むことができるようにする。</li> <li>友達とまっすぐに並んだり、前後左右に並んでいる友達を覚えたりする遊びなどを行うことにより、遊びを通して小学校以降の生活の素地となる経験を積み重ねることができるようにする。</li> </ul>
思考力・判断力・表現力の育成 1(1)③	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な事象や出来事に自ら関わり、発見することや考えることを楽しめるような環境を構成し、幼児が進んで自分の生活や遊びを工夫することを楽しむことができるようにする。</li> <li>小学校での授業体験などを通して、小学校に入学することへの期待を膨らませることができるようにする。</li> <li>自分たちが相談して決めたことを実現させる経験を積み重ねることにより、友達と意見を調整する大切さ、自分たちの考えが実現する喜びを味わうことができるようにする。</li> <li>自分なりに判断して行動しようとする姿を認め、やり遂げるまで励まし続けることにより、自信をもって判断したり、行動したりできるようにする。</li> <li>様々な人と関わったり、園外の施設を利用したりする機会を設けることにより、相手や場面に応じて適切な行動をとることができるようにする。</li> <li>幼児の表現した言葉を教員・保育士等が丁寧に受け止めていくことにより、自分の気持ちを言葉で伝える楽しさや、人とつながる喜びを味わうことができるようにする。</li> </ul>

連携教育の実践(例)		幼保小連携教育の場づくり(例)		
生活習慣・運動(健康な心と体)	基本的な生活習慣	<p>子ども同士の連携</p> <p>□幼児と児童が互いに学び合う交流活動 幼児と小学生が互いに関わり合うことで成長していくことのできる交流活動計画を設定する。 ・活動のねらい、内容を幼児・児童それぞれに明確に設定する。 ・学年ごとや学級ごとではなく、園・学校全体で年間計画に訪問・見学・体験を系統的に位置付けて実施する。 ○連携園・校相互の教育課程に配慮し、単年度ではなく継続的に実施していく。 ○接続期カリキュラムに交流活動を明確に位置付ける。</p>		
	身体・運動機能	<p>指導者同士の連携</p> <p>□合同研修会 子どもの発達状態に応じて系統的に指導していくために、幼稚園教員・保育士、小学校教員が互いに指導のねらい、指導内容や指導方法を理解し合うために、合同研修会を実施する。 □小学校教育研究会各部会・発表会への参加 幼稚園教員・保育士が小学校教育研究会各部会・発表会へ参加し、小学校教育への理解を深める。 □保育・授業見学 幼稚園・保育園の保育と、小学校の授業を互いに見合い、協議会で意見交流をして理解を深める。 □交流のための打合せ 幼児と児童の交流活動の実施に向けて、交流内容案を基に事前打合せを綿密に行い、事後の反省も行う。 □子どもの情報共有 小学校への就学にあたって、育ちの把握、指導の反省と課題・評価を共有する。 ・保護者がアイリスシートを作成している場合は、保護者の了解を得た上で、丁寧に引き継ぎを行う。 □接続期カリキュラムの作成 小学校教育への接続を円滑にするための5歳児と小学校1年生の接続期カリキュラムを幼保小の指導者が共同で作成する。 □幼稚園・保育園・小学校の保護者向け文書の共有化 保護者が、幼児期の教育から小学校の教育への接続を十分に理解することができるよう、保護者向け文書を共有する。</p>		
豊かな人間性(一人とのかかわり)	共同	<p>家庭への働きかけ・地域との連携</p> <p>□小学校説明会の実施 入学間近の幼児の保護者が安心できるような説明会や見学会を行う。 ・小学生保護者による保護者懇談会を実施し、小学生保護者と、幼児の保護者とが、少人数グループに分かれて情報交換などを行う。 □保護者向けリーフレットの作成 小学校教育への理解を深めるために、入学間近の幼児の保護者を対象に作成・配布する。 □地域・関係機関による児童・幼児の交流活動の実施 地域自治会、児童委員、児童館等と幼稚園・保育園・小学校が連携・協力し、行事計画などを調整する。 □園・学校行事への参加・参画 保護者に加え、地域関係者の園・学校行事への参加を推進するために、計画の段階から地域住民などが参画できる体制を整備する。 □地域や大学生等のボランティアの活用 園・学校の交流活動に地域等のボランティアの教育力を活用する。</p>		
	信頼	<p>□幼児が、小学校1年生の案内による「がっこうたんけん」を行う。 □小学校1年生が、幼児の生活発表会予行練習を見学し助言をする。 □小学校1年生と幼児が、幼稚園PTA主催の人形劇を一緒に観る。 □園庭を、幼稚園・保育園で互いに開放し合う。 □小学校校庭を、幼稚園・保育園へ開放する。 □幼保小連携ブロックごとの定期的な顔合せを行う。 □小学校5年生と5歳児との交流を行う。</p>		
	規範	<p>□児童館行事への参加を促進する。 □小学校の学校公開の案内を幼稚園・保育園に配布する。</p>		

幼児期の学びと小学校教育との相違点

	幼児教育(幼稚園・保育所)	小学校教育
学びの芽生え(「諸感覚を揺さぶる」)	<p>①遊びを中心に、学びの芽を育てる。</p> <p>②幼児の興味・関心に応じて、活動を通して学ぶ。</p> <p>③幼児の育ちに対する個人内評価をする。</p> <p>④個に応じた声掛けや支援を行う。</p> <p>⑤緩やかでくつろぎのある生活時間の中で過ごす。</p> <p>⑥遊びを中心として、安心できる環境の中で過ごす。</p> <p>⑦生活時間の大半を、教員・保育士等と過ごす。</p> <p>⑧施設・設備が幼児の体格に合わせた規格であり、優しい色遣いや表示となっている。</p> <p>⑨5歳児は最年長児として活動する。</p>	<p>①各教科等を中心に、学習を系統的に積み重ねる。</p> <p>②授業の多くは、教科書を使用し、着席して学習する。</p> <p>③学習内容の定着について絶対評価をする。</p> <p>④個に応じながら、集団での指導を行う。</p> <p>⑤時間割により、定まった学習時間を過ごす。</p> <p>⑥授業を中心として、集団生活をして過ごす。</p> <p>⑦午後3時頃まで、学級担任と過ごす。</p> <p>⑧施設・設備が6年生までの児童の体格に合わせ、広く、大きくになっている。</p> <p>⑨小学校1年生は上級生の支援の下、活動する。</p>
思考	<p>□児童による幼児への読み聞かせを行う。(リーディングパディ) □小学校、幼稚園、保育園の指導者同士が、保育や授業を互いに参観し合う。</p>	
言葉	<p>□幼児が小学校の授業を見学する。 □小学校入学前に、幼稚園・保育園と合同の連絡会を行う。 □小学校1・2年生活科の単元「昔遊び」や「〇〇ランド」等での交流活動を行う。 □幼児が、小学校の運動会へ参加する。 □幼児が、小学校の展覧会・夏休み作品展展示会の見学をする。</p>	
創造		

## 【スタートカリキュラム作成委員】

幼稚園長会代表者	水元幼稚園	園長	矢野靖子
小学校長会代表者	宝木塚小学校	校長	小高和子
	北住吉幼稚園	主任教諭	橋本奈帆
	葛飾小学校	主任教諭	望月慶子
	西亀有小学校	主任教諭	黒澤奈穂美
	北野小学校	主任教諭	大木めぐみ
葛飾区教育委員会事務局指導室	指導主事	高久道子	

かつしかっこスタートカリキュラム

平成30年12月発行

編集・発行 葛飾区教育委員会事務局指導室